

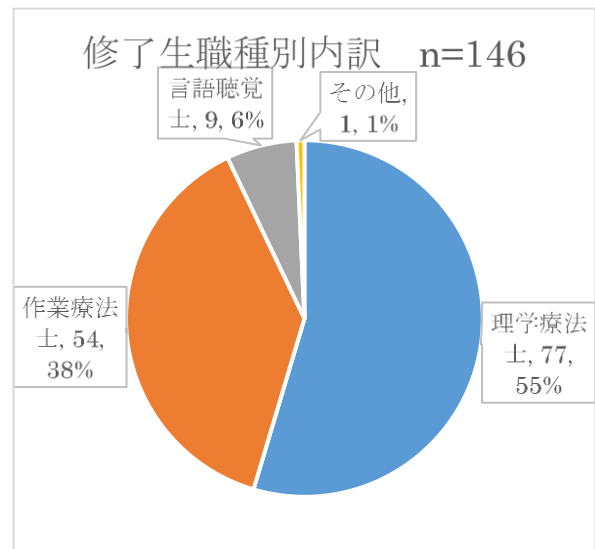
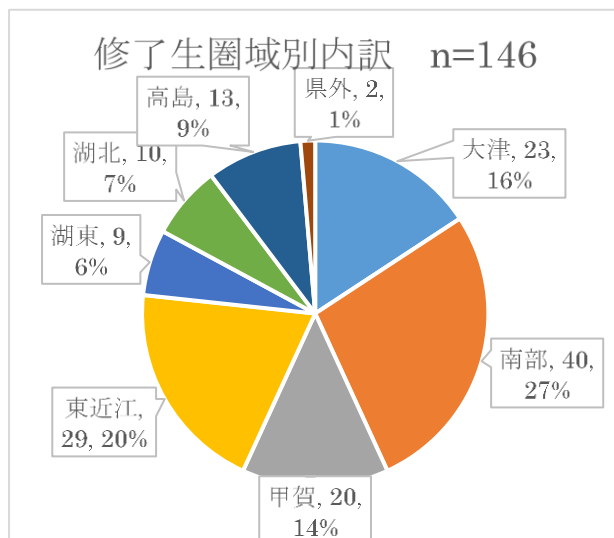
地域リハビリテーション人材育成研修会の修了生の概要

○これまでの研修修了生数

年 度	修了者数	うち過年度の修了者数
平成 29 年度	35	—
平成 30 年度	30	5
令和元年度	24	4
令和 2 年度	20	2
令和 3 年度	20	1
令和 4 年度	17	1
計	146	—

○二次医療圏域別修了生の状況 * 令和4年10月現在の人口比

圏域名	人数	人口比* (10万人あたり)	内 訳			
			理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	その他
大津	23	6.71	15	7	1	0
南部	40	11.50	22	13	4	1
甲賀	20	14.07	13	5	2	0
東近江	29	12.84	6	18	0	0
湖東	9	5.83	4	5	0	0
湖北	10	6.67	6	2	2	0
高島	13	28.44	10	3	0	0
県外	2		1	1	0	0
計	129	12.30	77	54	9	1



「地域共生社会」を実現するためのリハビリテーション人材育成プロジェクト(H29.5.15)

目指すべき姿

あらゆるライフステージにあるすべての人々がどのような心身の状態であっても、住み慣れた場所で、相互に認め合い、支えあいながら、安心して社会に参加し、望む生活を送ることができる地域共生社会の実現

※IQFの考え方に基づき、環境因子へのアプローチも含めた保健・医療・福祉・教育・職業・社会等の「リハビリテーションに取り組む関係機関・施設との連携や協働した取り組みを一層促進し、医学モデルから生活モデルまでを包括したリハビリテーションの推進を行うことで、上記の地域共生社会の実現を目指していく
(参考：滋賀県リハビリテーション推進計画)

目指すべき姿実現のための方策

①地域リハビリテーション人材育成事業

(地域で活躍するリハビリテーション専門職の育成)

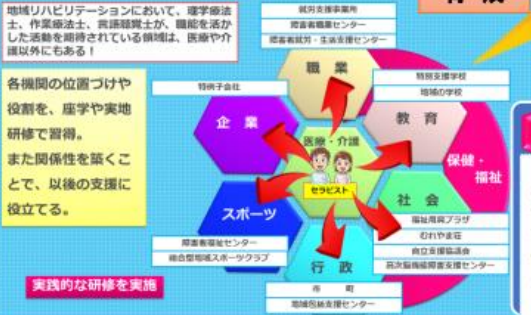
(平成29年度～)

※目指すべき人物像：地域ごとのリハビリテーション支援の中核を担う責務があることを自覚し、他領域、総合知識を習得し、地域リハ推進の旗振り役となれる人材の育成
(参考：滋賀県リハビリテーション推進計画)

(趣旨・内容) 医学的リハビリテーションの知識や技術をベースに、関連する制度やそれに基づくサービス、地域資源に精通し、医療や介護の範疇から福祉、就労、教育等の領域まで視野を入れ、自立や社会参加を目指す障害のある方などを対象に、地域で支援が実践できるリハビリテーション専門職を育成する。



地域リハビリテーション人材育成研修



②圏域への展開 (平成30年度～)

(趣旨・内容) モデル圏域において、地域リハビリテーションの視点を生かした、子供から高齢者までを対象にした地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組みが進められるように、モデル事業を実践する。
展開の例 ・障害者児の自立支援促進 ・教育機関における自立支援促進 ・就労や職場定着、二次障害の推進 ・余暇やスポーツに向けた支援 等

地域共生社会の実現

(趣旨・内容) より効果的な展開に向けて、住民や支援者に対して、講演会の開催などをとおして自立や社会参加に向けた意識の醸成を行う。

「地域共生社会」を実現するリハビリテーション人材育成プロジェクト
研修を修了したリハビリテーション専門職の活躍のイメージ図

リハビリテーションの視点を活かした地域支援の実践 -地域共生社会を目指して-

① 提供するリハサービスの質の向上

- 患者・利用者の地域生活を見越したQOL向上に資するアプローチへの活用
- 部署内での教育体制強化 ・地域との連携強化 など



② リハ職の職能を活かした地域づくりへの参画

- 地域の実情に応じた活動のイメージ
- 地域ケア会議、自立支援協議会におけるリハ専門職の視点での助言
 - 虚弱高齢者の活動や参加に向けた取組への支援
 - 介護予防や二次障害予防など、予防的介入の取組への支援
 - 障害児者の事業所における支援者や教育機関における教員への助言
 - 障害児者のスポーツ活動への参加に対する支援
 - リハビリテーション専門職の視点を加えた地域づくりに関する支援
 - その他リハビリテーションの取組みに関する企業・運営・評価に関する支援 等



生活を分断しない・生活を支える医療（医学的視点）の推進